

平成25年度「みんなの審査会」～市民参加型事業評価～審査結果詳細

事業番号	4-①	事業名	泉北ニュータウン子育て世帯等住まいアシスト事業		
所管	建築都市	局	ニュータウン地域再生	室	課

【事業内容】					
①若年夫婦・子育て世帯向け 泉北ニュータウン外から泉北ニュータウン内の賃貸住宅に転居した若年夫婦・子育て世帯を対象に、家賃が5万円を超える分について、月額最大2万円、最長5年間の家賃補助を行う。					
②若年勤労単身世帯向け 市外から泉北ニュータウン内の賃貸住宅に転居した29歳以下の勤労単身者を対象に、月額最大1万円、最長3年間の家賃補助を行う。					
総コスト(千円)	(平成24年度決算額)	30,230千円	(平成25年度予算額)	53,560千円	

【市民審査員・検討委員から頂いた審査シート記載内容】					
【今後の方向性】					
＜市民審査員＞			＜検討委員(参考意見)＞		
今後の方向性	事業の方向性	拡充	1	3	2
		現状維持	1	5	
		縮小	1		
		廃止			
			ゼロ	縮小	現状維持
公金投入の方向性			公金投入の方向性		

【今後の方向性】《事業の方向性—公金投入の方向性》を選択した理由

《拡充—縮小》
 ・泉北ニュータウンの再生化には賛成です。しかし、この問題を真剣に考えようとしている人が何人いるでしょうか。この取組みをするならもっとたくさんの人に理解し、考えてもらう必要があるのではないのでしょうか。取り組んでいるからOKで終わってしまっているように感じます。

《拡充—現状維持》
 ・南区の著しい人口減少、若年層の減少は今後も進行していくと堺市に大きな影響が与えられると考えられます。公金投入は現状のままでも、効率的に事業を拡大する事ができると思います。
 ・事業の方向性で拡充を選択したのは、泉北ニュータウンが若年層が増えて活気のある街になったら良いなと思ったからです。少子高齢化を防ぐことは必要とも思うので。
 ・公金使用の明確な発表開示を今後も拡充して下さい。事業としては若年層のみならず年齢層の見直しも含めて。

《拡充—拡大》
 ・泉北に住んでいる住民として生き生きと暮らせる為にも拡大をお願いします。

《現状維持—縮小》
 ・住民の目線を必ず取り入れる事。

《現状維持—現状維持》
 ・これからの成果効果をきっちり出してもらうという事を期待すると共に、単年度事業でなく、複数年度事業ということもあり、現状維持とする。
 ・事業開始からまだ3年程度しか経過しておらず、現時点では現状維持が適当と考える。ただし、補助期間満了後、泉北NTから転出する世帯の割合が多数に上る場合には、事業の廃止を含めてあり方の抜本的な見直しが必要になるものとする。
 ・補助金が一定期間続く事業ですので、「公金投入」は現状維持とした。ただし、一定期間経過後の見直しが必要である。
 ・事業の方向性は関連施策との連携により考えていくという意味で「拡充」に近い「現状維持」とします。
 ・事業の必要性に若干の無理がありそうだ(本来のベッドタウンとしての魅力も重要)。関係先との協働が必要である。

【今後の方向性】

- ・国勢調査での突出したデータに対する重点施策として本事業をスタートした事は一定の理解ができます。
- ・5年間はいろいろ改善しながら続けてほしいです。
- ・低所得者に対する支援継続は必要であるが、現状の規模で良いと考える。
- ・ニュータウンの維持、活性化には事業は必要。但し、方向性、方策の見直しは必要なので、本件について現状。

《縮小—縮小》

- ・家賃補助がバランスのとれた年齢人口構成に結び付く、帰着するとは思えない。その分の予算を交流人口を増やす方策や生活支援事業に使うべきではないか。
- ・実施中のものであるので、やむを得ない。

【改善策について】(複数回答あり)		審査員	検討委員
改善すべき点	事業の実施内容について見直しが必要(サービスそのもののあり方等)	6	3
	事業規模について見直しが必要(サービスの水準や対象者等)	6	0
	関連事業とのあり方について見直しが必要(統合や再編を含めたあり方等)	8	4
	サービス受給者の負担(受益者負担)について見直しが必要	3	0
	市以外からの財源の確保について見直しが必要	3	0
	担い手のあり方について見直しが必要	3	0
	その他	1	0

【具体的な改善策提案】※【今後の方向性】で選択した《事業の方向性—公金投入の方向性》ごとに記載

《拡充—現状維持》

- ・エコタウンや家賃補助が住民のニーズが高い部分ではないと思います。子育ての街を目指すのであれば、子育てしている人の意見を取り入れて、魅力的な街づくりに活かして頂きたいです。また、PRの仕方も改善が必要だと思います。
- ・年齢層の見直し。広報PRの改善を、印刷媒体のみならず他の媒体利用も考えて。

《現状維持—縮小》

- ・PR広報の拡大から始めて、市内、市外からの問い合わせに分かりやすく丁寧に答えて、泉北に関心を向ける事から始める。

《現状維持—現状維持》

- ・公的賃貸住宅がメインである事でこの住宅は住むという事が設置理由であるが、場合によっては規制緩和も検討いただき、特に1Fに生活に必要なサービス業の展開も検討して欲しい。(他市ではすでにしている事もある、ただし、府営であるので堺市がどこまで関与できるかは不明である。)
- ・「泉北ニュータウン」のブランド化戦略とセットでの実施内容の見直しが必要。
- ・住民目線を常に視野に入れて事業実施する事。
- ・この事業とは関係ないですが、こういった建築部局にも「子育て世代女性」が職員として入って企画に関与すべきだと思います。
- ・担当部署が泉北NTをターゲットとしているので限界があると思うが、堺市全体の活性化をバランスよく進めていくためにも関係先との連携を強化する。
- ・若年世帯への広報手段について改善が必要であると考えます。
- ・この制度が存在することが動機となって泉北NTに転入しているのか、エビデンスをきちんと固める必要がある。
- ・その一方で他行政区に住んでいる類似の住民への公平性という観点から、1~2サイクルの事業終了時には厳格な事業評価が必要と考えます。
- ・団地の統廃合及び民間への払い下げにより、民間分譲物件、賃貸物件を増加させるべき。小生の居住地である三原台はヤングタウン跡地が復活し、若年世代が急増している。
- ・所得制限を下げる代わりに補助額を増やす。(低所得者への負担減)
- ・府や他事業者との連携強化が必要
- ・広報方法の改善(電車の中の広告等)
- ・ニュータウン全体の活性化を考えた全体事業の検討が必要。
- ・低年齢から高齢まで一体となった食住環境は絶対必要だから。

【改善策について】

・限られた財源からの発想でなく、捨てるものと新たに加えるものとの新発想へ。

《縮小—縮小》

- ・「泉北ニュータウン」という街のブランド価値を再構築し、その中で若年層を呼び込む方を再検討する。
- ・若年層を定住させるには対策がなすすぎる。
- ・鶴坂先生、田中先生と全く同意見です。

《拡充—縮小》

- ・もっともっと市民の意見を聞くべきでは。でなければ、市が目標としている若年層の転入は無いと思います。本当のニーズは何なのか。そのためには何が必要なかを今一度考えなおすべきだと思います。きっと周辺商業施設も人口拡充を狙っています。もっと周りと協力すれば変えられると思います。

【自由記入欄】

- ・市が把握している現状(教育、子育てが充実している)と実際市民が感じている事とに違いがある。公的住宅の入居者と民間住宅入居者とも考え方の違いがある。今後の泉北ニュータウンのあるべき姿を考えていくと、福祉と芝生(環境等)のまちづくり化という考え方もあるような気がする。
- ・近隣センターの活用方法についてはすでにされている地域芝生ステーション推進モデル事業の拡充とまちづくりの拠点としての近隣センターの位置づけを明確されることが大事だと思う。
- ・私個人としましては、若年で友人も多く泉北ニュータウンに住んでおります。しかし、不便であり、泉北高速も高く、魅力が感じられない為、いつも北の方で遊びます。今は免許更新へ光明池へ行くぐらいです。
- ・交通便が不便ですので、それを改善してもらえたら泉北ニュータウンに住んでもいいかなと思います。電車賃が高いや、歩行者道路が狭い等。